

日本産酒類の海外展開に関連する 平成28年度 国際交流基金の主な取り組みと今後の事業展開予定

平成28年度は、ニューヨーク、トロント、パリ、ローマ、ソウルにおいて日本産酒類に関するセミナーや映画上映会、公演に合わせた試飲会を実施するなどして、約1,800名に日本産酒類を紹介。在外公館と連携し、中南米3ヶ国へ専門家派遣を行った他、日本産酒類に関するテレビ番組・ドキュメンタリー映画を海外テレビ局へ提供予定。

海外事務所併設ホールを活用した セミナー、試飲会の実施

海外の日本食ファンと蔵元の交流の場を創出

パリ日本文化会館では、日本各地の蔵元の有志による日本酒の紹介セミナー及び試飲会を実施。100名以上収容できる館内のホールは満席となり、フランス人日本酒専門家による解説の後に行った試飲会では、蔵元が各地の酒の魅力をアピールした。日本酒愛好家から初めて日本酒を口にする参加者まで幅広い層に好評であった。

地域と言葉の魅力を発信

ソウル日本文化センターでは、日本の多様な魅力を伝え、日本語学習への意欲を喚起するため、各都道府県の文化や方言を紹介する講座を実施している。そのなかで、地域の食文化として地酒の紹介、試飲を行った。28年度の対象地は高知県、鳥取県、鹿児島県、富山県。



写真はいずれもパリ日本文化会館

人的ネットワークを生かして様々な 分野とのコラボレーションを促進

佐渡の銘酒を中心に和洋シェフの コラボレーションが実現

ニューヨーク日本文化センターが仲介し、現地の日本クラブと佐渡の蔵元の共催で日米の食文化交流イベントが行われた。佐渡の蔵元による「酒造りと地域造り」に関する講演に続いて、佐渡の銘酒に合わせて日米のシェフが共同で創作した料理がふるまわれ、好評を博した。



様々なジャンルの文化事業を通して 酒の奥深さを伝える試み

ニューヨークでは、焼酎の発酵音からインスピレーションを受けた現代神楽公演の開催を支援。公演、ワークショップ、試飲会にはのべ400名以上が参加した。トロント日本文化センターでは、日本の食文化紹介の一環として、酒造りを記録した<<The Birth of Sake>>の上映会を実施。9割以上の観客から満足度の高い回答が得られた。



©2016 Ayumi Sakamoto

セミナーや試飲会の他に、映画上映や公演などと組み合わせることで多角的な日本文化紹介が可能。今後も機会を捉えて類似の事業を実施検討していく。 ※平成29年度以降の事業は計画策定中